

会 議 録

会議の名称	第5回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会					
事務局	生涯学習部生涯学習課					
開催日時	令和7年2月13日（木）18時30分から20時30分まで					
開催場所	小金井市民会館 萌え木ホール3階A会議室					
出席者	委員長	金子 嘉宏	委員			
	副会長	塩原 真一	委員			
	委員	瀧島 啓司	委員	倉脇 雪夜	委員	
		大林 基	委員	板垣 智徳	委員	
		天本 晋平	委員	島田 剛	委員	
		鈴木 哲也	委員	瀬沼 将己	委員	
		砂子 啓子	委員	中村 彰宏	委員	
		依田 隆夫	委員	川原 美紀	委員	
		下島 陸矢	委員	梶野 政志	委員	
欠席者						
事務局	生涯学習部長	梅原 啓太郎				
	生涯学習課長	三浦 真				
	スポーツ振興係長	越 元宏				
	スポーツ振興係主任	津田 理恵				
	スポーツ振興係主事	矢島 幸子				
	指導室長	平田 勇治				
	指導室統括指導主事	田村 忍				
受託者	リーフラス株式会社	西梶 博紀		中野 泰博		
		戸所 徳益		富永 寧々		
傍聴の可否	☒ 可 ☐ 一部不可 ☐ 不可					
傍聴者数	3					
傍聴不可等の理由等	-					
会議次第	1 前回会議録の確認 2 小金井市における学校部活動の地域連携について 3 小金井市の学校部活動のあり方について 4 その他					
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり					
提出資料	別紙のとおり					

金子委員長 それでは、定刻となりましたので、第5回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会を開催いたします。

本日、2人ほど遅刻されておりますが、委員14人ということで、定足数については、小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会設置条例第6条第2項に半数をもって成立することになっており、ただいま14人のご出席をいただいておりますので、会議は成立していることをご報告申し上げます。

本日の流れについて、事務局から説明をお願いいたします。

三浦課長 皆様、こんばんは。よろしくお願いいたします。本日も20時過ぎまでの会議を予定しております。議題は、前回同様、大きく分けて3つございます。

1つ目は、前回会議録の確認です。2つ目は、学校部活動における地域連携の実証実験について、小金井市緑中学校のバスケットボール部の皆様にご協力いただき、1月から実施している進捗状況を報告いたします。実証実験後、生徒や保護者の皆様にアンケートを行う予定ですが、前回会議でのご意見を踏まえ修正した内容をお配りしております。

こちらについては、委託しているリーフラス様からご報告いただいた後、皆様からもご意見をいただきたいと思います。3つ目の議題は、小金井市の部活動について、前回に引き続きグループワークで議論を行います。私からの説明は以上です。

金子委員長 ありがとうございます。会議に先立ち、配布資料の確認を事務局の方をお願いいたします。

(配布資料の確認)

金子委員長 ありがとうございます。それでは、議題1「前回会議録の確認」です。前回分、第4回の会議録について、事務局から説明をお願いします。

三浦課長 前回の会議録に皆様のご意見を反映したものとなっております。本日、皆様にご承認いただければ、確定版として、今後、市役所の情報公開コーナーやホームページで公開したいと考えております。

金子委員長 ありがとうございました。事前に送付しておりました資料を、本日机上に配布されたもので確定とさせていただいてもよろしいでしょうか。では、異議なしということで、確定とさせていただきます。

続きまして、議題2「小金井市における学校部活動の地域連携について」です。リーフラスさんからご説明をお願いいたします。

受託者（富永） 皆様、本日はお忙しい中、検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。リーフラス株式会社の富永です。本日は、現在進行中の実証実験中間報告をさせていただきます。資料につきましては、「資料1 小金井市実証実験中間報告」「資料2 実証実験見学アンケート」「資料3 実証実験アンケート内容」の順で発表させていただきます。

まず、今回の中間報告ですが、生徒・保護者・顧問のアンケートは行っておらず、これまでの進捗状況の整理、浮かび上がってきた課題の共有、そして今後の方向性についてお話しさせていただきます。

それでは「資料1 小金井市実証実験中間報告」をご確認ください。

はじめに、第4回検討委員会の際、実証実験の内容について紹介させていただきましたが、改めて本実証実験についての概要や、その背景・目的について簡単にご説明いたします。

1 ページ目をご確認ください。本実証実験は、小金井市立緑中学校の男子・女子バスケットボール部を対象に、令和7年1月から3月までの3か月間実施しています。本日付けで5回の活動を終え、引き続き3月末まで計10回程度の活動を予定しています。資料につきましては、2月7日（金）の提出のため、2月8日（土）の分は記載しておりませんのでご了承ください。

現在は、学校顧問の先生方と連携しながら、リーフラス指導員が毎週土曜日のみ技術指導やサポートを行いながら、生徒一人ひとりの成長を促せるよう活動しております。

2 ページ目、実証実験の背景及び目的につきまして、確認をさせていただきました。こちらは、9月24日（水）の検討委員会でお伝えしているため、本日は割愛させていただきます。

3 ページ目です。現在、部活動の運営方式として「地域連携」と

「地域移行」の2つの形が検討されています。今回の実証実験では、地域連携型での運営を試みっていますが、今後の課題として、地域移行の可能性やメリット・デメリットを整理し、どの形が小金井市にとって最適なのかを検証していくことが重要となります。

4ページ目です。改めて、本日発表させていただく中間報告の位置づけについては、これまでの実施内容を振り返り、現時点で見えてきた成果と課題を整理することを目的としています。現時点でのポイントは3つあります。

1つ目は、1月11日の開始から現在までの取り組みを振り返り、どのような状況で進行しているのかを共有します。2つ目は、実験を進める中で浮かび上がった課題を明確にし、今後の改善策や課題解決の方向性を確認します。3つ目は、最終報告に向けてより明確な結論を導き出せるよう準備するためです。

この中間報告をもとに、最終報告に向けた検討をさらに深め、実証実験の成果をより有意義なものにするための改善を進めてまいります。

5ページ目に移ります。ここからは、各週の男女別活動報告内容となります。報告内容については、参加人数・活動情報・指導者報告・巡回者報告の4項目に分けて記載しております。本日は時間も限られているため、5ページ目から10ページ目につきましては、ぜひお時間がある際にご確認ください。

それでは、11ページ目からの参加状況の確認や実証実験を実施し浮かび上がった課題についてお伝えさせていただきます。

まずは参加状況についてです。これまでの活動において、男子バスケットボール部は比較的安定した参加率を維持しており、生徒たちも実証実験の流れに慣れ始めている印象です。一方、女子バスケットボール部では、実施回数が1回少ないことや、インフルエンザの影響による学級閉鎖や体調不良による欠席が目立つ状況がありました。そのため、少人数での練習になる回もありましたが、その分、より細かな個別指導ができる場面もありました。

参加状況の把握については、当日の参加数と事前の欠席連絡から算出させていただきました。欠席連絡については、毎週金曜日にリフラス専用アドレスよりリマインド配信をし、欠席する場合は、保護者よりメールをいただいております。欠席内容の内訳については、現時点で指導者の配置によるマイナスな欠席はなく、体調不良

や家庭の事情が主な内容となっております。

続いて、12ページへ進みます。前回の検討委員会の際、実証実験を開始する前に予想していた課題や仮定・効果検証内容については、生徒・保護者・顧問に分けて予測をしました。こちらの結果につきましては、最終のアンケート回収が完了後により正確にお伝えができる内容だと思い、本日は、実際の指導状況や弊社の巡回を通して感じた課題点を共有したいと思います。

実証実験を通じて見えてきた課題は、これまでの実施を振り返り、いくつか浮かび上がってきました。

1つ目は、指導者の安定・確保についてです。今回の実証実験では、初回活動時に男女ともに合同練習を行い、どちらかの指導員が欠勤となった場合、代行としてサポートができる体制を確保しました。しかし、今回のようなバックアップ体制が取れない場合は、部活動の中止や、顧問の先生に頼ってしまうというケースも課題感としてあげられ、より代行指導員の確保や明確な体制を整える必要があると感じています。

2つ目は、学校との連携強化についてです。本実験は「地域連携」という形を取っており、土曜日のみ対応しておりますが、平日を担当する学校の顧問の先生との情報共有が重要になります。現在も報告のやり取りは行っていますが、当日の対応となっており、よりスムーズな連携が求められています。

3つ目は、欠席連絡の定着化についてです。平日の部活動では生徒から直接先生へ欠席連絡を伝え、土曜日の実証実験日は、保護者からメールで伝えるということの浸透ができておらず、口頭で先生に伝えてしまうというケースが生じています。

11ページで記載させていただいた内容では、男子が9割近く事前連絡の徹底ができており、女子は現在半数以下が実態となっております。その要因として考えられるのは、スタート前から連携させていただいている男子バスケットボールの顧問、瀬沼先生にもご尽力いただき、男子部員へは欠席に関する報告方法などもより連携が行えておりましたが、女子バスケットボール部顧問の先生とは、練習の時での直接的なやり取りのみとなってしまうため、先生が悪いということではなく、事前の欠席連絡の定着化については連携ができ切れていないことが要因と考えています。安全管理を徹底していくには、顧問の先生との連携も必須と改めてわかりました。

4つ目は、顧問の負担軽減の実感についてです。本実証実験の目的の1つは顧問の先生の負担軽減ですが、土曜日のみの活動において、それがどの程度実感されているのかは、まだ明確ではありません。特に、3つ目でも共有させていただいたように、先生がどこまで関与しなければいけないのか、また、指導の引き継ぎや、緊急時の対応などにおいて、先生方の負担が軽減されているのかどうか、今後の検証が必要です。

5つ目は、保護者への情報提供と理解促進です。部活動のあり方が変わる中で、保護者の皆様がこの実証実験をどのように受け止めているのかを把握し、より分かりやすい情報提供が必要だと感じています。実証実験終了後のアンケートを通じて、保護者の皆様の声を丁寧に拾い上げていく予定です。

以上が、現状上がっている課題感になります。

13ページへ進みます。最終報告に向け、残りの期間でより深く検証を進めてまいります。特に以下の3点について明確化していく必要があると感じています。

1つ目は、地域連携と地域移行、どちらが小金井市にとって最適なのかについてです。現在は地域連携型で進めていますが、将来的には完全移行の可能性も含め、より広い視点での検討が必要です。地域移行のメリット・デメリットも整理し、小金井市としての最適なモデルを検討していく必要があります。

2つ目は、保険の適用やトラブル時の対応についてです。学校管理下で行う部活動はスポーツ振興保険、地域クラブとして運営する部活動ではスポーツ振興保険が使えないなど、適用される保険の種類が異なります。そのため、万が一の事故発生時に「学校が対応するのか」「団体・民間企業が責任を持つのか」など、責任の所在を明確にすることが求められます。

3つ目は、団体・民間企業との連携の在り方についてです。現在はリーフラスが指導を担当していますが、今後、地域のスポーツクラブや文化団体とどのように連携を図るのかも、大きな検討課題となります。地域の人材を活用するための仕組みづくりが必要になってくるのではないかと考えます。

最後に、本実証実験は、小金井市にとって最適な部活動の形を検討するための重要な取り組みだと感じています。特に、生徒・保護者・顧問とそれぞれの立場からの意見を集め、より良いモデルを構

築することが目的です。

今後どのような形で部活動を発展させていくかを引き続き検討していきたいと思います。以上で、資料1 実証実験中間報告の説明となりました。

ここからは、「資料2 実証実験見学アンケート回答」とさせていただきます。今回、2月1日（土）に緑中学校だけでなく教育委員会のご尽力の基、検討委員会参加者の皆様を対象に、実証実験の見学を行える日程を設けさせていただきました。

その際、いただきましたアンケート回答については、リーフラスで回答できる内容のみ発表させていただきます。

お手元にあります。資料2をご確認ください。

1つ目、今回の実証実験での練習時間は何時間ですか。については、現在3時間となります。

2つ目、従前の練習時間とどの位違いますか。については、実証実験前の土曜日活動も3時間のため、活動に変化はありません。

3つ目、コロナ前とはどの位違いますか。コロナ前の小金井市部活動状況については、学校確認が必要です。

4つ目、最近の出席率はどの位ですか。従前と変化はありますか。については、資料1 実証実験中間報告を参考にいただき、従前と変化はあるかにつきましては、最終報告で発言できればと思います。

5つ目、中学部活での部員増傾向はバスケットボールのみと聞きますが、実態はどうですか。については、全国的には中学校のバスケットボール部員数は微増傾向にありますが、地域や学校ごとによって異なります。

6つ目、平日の練習は従前と変化していますか。については、3月終了後アンケートで収集予定です。

7つ目、練習の指導は1人体制で大丈夫でしょうか。複数対応の方がよいということはあるのでしょうか。については、1人体制での対応が可能です。しかし今後は、部員人数や種目・予算の状況によっては、複数人体制も議論が必要な内容だと思います。

以上、リーフラスからの回答とさせていただきます。

他にも複数実証実験についての感想をいただき、誠にありがとうございました。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

最後に、資料3、実証実験アンケート内容です。こちらの資料は、

前回の委員会終了後からブラッシュアップさせていただき、事前に金子委員長へも確認させていただいた内容となります。追加項目や削除項目がありましたら、本日の委員にてお知らせいただけると幸いです。

以上が資料1から3の説明となりました。ご清聴いただきありがとうございます。

金子委員長 ありがとうございました。事務局から補足がありましたらお願いいたします。

三浦課長 補足させていただきます。資料2では、2月1日に緑中の実証実験を行った際に、委員の皆様に見学いただき、ご記入いただいたアンケートになります。当日検討委員会の委員ではない方からもアンケートを提出いただきましたが、委員ではないことから、この席では配布を止めさせていただきました。ただし、その中に記載された文言について、口頭でご説明させていただきます。

いただいたご意見を拝見しますと、「顧問の先生が必須で参加するのであれば、先生方の負担軽減には繋がらないのではないか」という点を危惧しておりました。また、「生徒さんが楽しそうで、良い雰囲気でした。地域で生涯スポーツを楽しめる環境が作れば良いなと感じています。」というアンケート回答がありましたので、この場で披露いたしました。以上でございます。

金子委員長 ありがとうございました。関連して、資料5として配布しました意見提案シートは、前回の会議で提出されたものですが、前回の会議で部活動の現場を見たいというご意見があり、検討してほしいという内容です。こちらについては、先ほど説明がありました通り、2月1日に実現をしたということになります。

以上の説明を踏まえて、皆様からご質問があれば、挙手をしてお名前を伝えてからご発言をお願いいたします。

砂子委員 公募委員の砂子です。ありがとうございました。
今回の実験についての3月までのスケジュールの中は、緑中学校以外の小金井市中学校のバスケットボール部を集めて合同部活みたいな形で実証実験をやることを考えていないかという点と、全くの

初心者の生徒と、経験者の生徒では、指導の内容が少し違うのではないかと感じますが、そのあたりは1人でも大丈夫なのか、また対応策などあれば教えてください。

三浦課長 1点目でございます。他の学校を緑中に集めて、合同部活みたいな形で実証実験をやることを考えていないかという点については、まだ手が届かないのではないかと考えています。そのため、3月までのスキームでは盛り込んでございません。

受託者（富永） 富永です。経験者と初心者のところにつきましては、今回の実証実験が開始したのが1月になるので、基礎練習は全体に差がない状況で緑中学校のバスケットボール部で実施していますので、メニューの差はほとんどなく、全体統一で実施しています。以上です。

金子委員長 ありがとうございます。今回は実証実験のため、場合によっては必要になるかもしれませんが、今のところはないということで進んでいるのかと思います。そのほかはいかがでしょうか。この後、アンケート等を行い、実証実験の最終報告は次回になります。また何かありましたら、ぜひアンケートに関しても事務局の方にご連絡いただければと思います。

ちなみに、いつまで大丈夫とかはございますか。

受託者（富永） ありがとうございます。3月の最終日が29日を予定しておりますので、3月の1週目までにいただけると幸いです。

金子委員長 では、3月の1週目までに事務局の方にメールでも何でも構いませんので、もしアンケートにご意見がありましたらお送りいただければと思います。事務局も含めて今後の検討を進めていきたいと思っています。

では、以上で議題2を終了させていただきます。今日は早く進みましたので、小金井市の学校部活動のあり方について、もう少し時間をとらせていただければと思います。

今回、5回目ですが、長く議論させていただき、後半のビジョン作りに時間が割けてこなかったのですが、皆様の中で色々と議論をしていただいた経緯がありますので、今年度中に程度をまとめた形

で、来年度を迎えられたらと思っております。この後説明しますが、基本的に皆様がそれぞれに、このようにしたら良いじゃないのかというようなビジョンを作っていて、最終的には事務局のほうで取りまとめながら、次回に関してはビジョンをご提案させていただくという流れで進めていきたいと思っております。

では、私から簡単に説明させていただきます。ビジョン作りに関して、リーフラスさんからも懸念点や課題がいくつか出てきたと思います。ビジョンが作れていくと、どういう課題が出てくるのかが明確になってきますので、この部分を皆様と進めていきたいと思えます。

何回かお見せしていますが、問題解決時に良く取られる手法で、最初にありたい姿、ビジョンを描かないと、問題が見えてこないし、どこが課題なのかも見えてきません。本来こういう部活動だといいな、だけど今はこんな部活動だ、という間がまさに問題になります。このような部活動を、子どもたちもしくは学校部活動を広く捉えれば生涯学習を含めた部活動やスポーツやアートの活動が、小金井市としてどう実現したらいいのだろうという姿を、描いていければいいと思います。

本日はワークシートを配らせていただいておりますが、こういう部活動にしたらいいじゃないのかを書いていただけたらと思います。その上で、事務局による集約を行い、次回以降に皆様で検討できればと思っております。

綺麗な言葉になっている必要はありません。コピーライターが作ったようなビジョンにする必要はありませんので、想いが伝わるようなビジョンにしていいただければと思います。文章にしても、箇条書きにしても、シンプルに一言で言っていただいても構いません。皆様に書いていただいた後に、グループの中でも再度検討しますが、グループで1つにまとめる必要はありません。それぞれで出していいただければと思います。

リーフラスさんも課題を出されていましたが、まず想定される課題は、そもそも部活動は何のためにしているのかという理由やモチベーションが、明確になると良いと思います。

部活動とはどういうものなのかがはっきりしてくると良いと思います。学校部活動であれば対象は中学生になりますが、生涯学習まで含めた地域のスポーツやアートの活動であれば対象は子どもだ

けじゃなくて大人も入ってくるでしょう。誰を対象にするのかも考えていくと課題が出てくるでしょう。

また、伴走者や指導者の質と量の担保も、当然今後課題として出てきます。これは予算も関係してくるのと、先ほど2人体制の方がいいじゃないかという話もありましたが、本当にその量が担保できるのかも課題でしょう。活動場所と頻度、時間なども当然課題です。活動の成果発表の場、スポーツだと大会、音楽だとコンサート、絵だったら美術展になると思いますが、そういう場所はどこで、どれぐらいの頻度でやっていくのか、スポーツにおいては大会が大きな比重を置いていると思いますので、大会をどうしていくのかを考えていく必要があります。

同時に、ベースになる所は、誰が運営するのかということです。地域移行すると地域が運営することになると思いますが、地域連携だと学校が運営するのを地域が助ける枠組みになると思いますので、全体の運営はどこがしていくのか、責任の所在はどこにあるのが課題になります。運営に合わせて、先ほど保険の話も出ていましたが、安全安心をどう守っていくのか、何かあった時の責任は誰が取るのか、誰がどれぐらいの費用を負担するのか、税金がどれぐらい負担されるのか、個人負担がどれぐらいになるのかを含めて、ここら辺のことが想定される課題として出てくるでしょう。しかし、ビジョンを考える時には、ここら辺のことを気にしながらではありますが、それが実現可能なことかは、あまり考えずにビジョンは考えた方がいいと思います。ビジョンを立てた上で、色んな問題を潰していくという事のためにビジョンを立てるところがありますので、ぜひここら辺のことは気にしながらも、それができないかはあまり気にしないで、やっぱりこうあったらいいなという姿がしっかり描かれればいいなと思っています。

僕が小学生・中学生・高校生とこういう問題解決型の学習をする時にやるワークシートを、一部言葉遣いを丁寧にし、皆様に提示しているという感じになります。最初は部活動について印象に残っていたり、気になっていることは今まで話してこられたり、先生方が経験されていると思いますので、気になっていることや、これはまずいなと思っていることでもいいし、これはすごく良かったなということでもいいと思います。印象に残っていることを3つぐらい書いてきてですね、その中で1番気になるのはどれかみたいなことと、

それがどう自分の経験と紐づいているかということを考えていただけると、何となくこうあったらいいなという姿が見えてくると思いますので、これは1つの方法なので、いきなりここを書き始めても構いません。今まで色々議論してきたとか、色々知識もインプットしてこられたと思うので、インプットされてきた知識の中で、自分が気になっていることを中心にしながら、ありたい姿みたいなものを考えていくと、考えやすくなると思いますので、ぜひ、こうあったらいいなという部活動をちょっと考えていただければなと思います。19時なので、皆様の様子を見ながらですね、15分ぐらい時間を取りますので、ワークシート1枚目に書いていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

(15分 各自ワーク)

金子委員長

皆様、ありがとうございます。お仕事後の人ばかりで申し訳ありませんが、もう少し進めていきたいと思います。

今度はグループを作り、複数で話してもらえればと思います。後ろの方で書いている方はペアでも構いませんので、考えてみてください。

エポケーということを話したことがありますかね。エポケーは哲学の言葉で、判断保留という意味です。一度判断を保留しましょうというのがエポケーです。ビジネスでは「なぜ」を5回も繰り返すのが哲学になっていて、それは「なんでだろう」ということを繰り返すと、自分の本当のモチベーションや、本質的な所に迫っていくということです。エポケーは、人間はどうしても因果関係を自分でどんどん作って行ってしまうのですが、その中で、一度判断を保留して、もう1回それを見つめ直してみることがエポケーです。

ちなみに僕が本町小の6年生の女子2人と、何でもやりたいことやっていいよという活動をしているのですが、その中でバンドやりたい子がいて、最初はエポケーをやってみようと思いました。

なんでバンドやりたいの？と聞いたら、音楽好きだからという答えが返ってきました。小学生ならこういう回答すると思うし、大抵の大人もこのような回答するだろうなと思うのですが、もう1回「なぜ」を繰り返し「なんで音楽が好きだっけ？」と聞くと、「気持ちいいから」と言ってきました。ここで「なぜ」ではないですが、

「気持ちいいってどんな気持ちになるの？」と繰り返しました。そして自由な感じと返答が来ました。やっぱりすごいなと思いました。音楽は自由な感じでいうところだったので、WHYボールを投げてみました。「何から自由になりたいの？」と聞いたら、「嫌なことから」と答えました。なるほど、そういうことなのだね。君たちが音楽をやりたいのは、嫌なことから自由になりたいから音楽をやっているということが、「なぜ」を何回か繰り返していくと、「音楽好きだから」というところから、「音楽をやると嫌なことが忘れられるから僕たちは音楽をやる」ということまで掘り下げられていくところがあるので、ぜひ皆様、グループの中で自分が書いたものを説明しながら、周りの人たちが「なんでそれはそうなの？」と聞いてあげると、それがだんだん深まっていくと思います。

グループで1つにまとめる必要はありません。グループ全体でやると時間がかかってしまうかもしれないので、2人か3人のグループを作って、それぞれの言ったことに対しての「なぜ」を3回ぐらい繰り返してみると、もう少し深まるかもしれません。

2枚目のワークシートに3回「なぜ」を繰り返してみましょと書いてあるので、ペアもしくは3人組になっていただいてもよろしいでしょうか。

時間はかからないと思うので、10分から15分ほど様子を見て、時間を区切りたいと思います。最初は説明をして、「なんでそうなの？」というようなことを話していただければと思います。

(15分 グループワーク)

金子委員長

書き終わりましたでしょうか。皆様からいただいたものを事務局とも見させていただきながら、次回までにはまとめて、皆様の意見がだいたいまとまっているといいなと思っています。

まとめさせていただいて、それをベースに次は議論をできればなと思っておりますので、今日は提出してください。

一旦これで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。後半は、僕が問題解決する時にこういう風にしていくということで、もし参考になったら、今後こういう風に考えていきましょう。

現状はこうなっていて、どこに問題があって、その原因は何なのかを突き詰めると、次に課題があって、その課題を解決するために

はどうしたらいいのかが初めて考えていけるかなと思います。そうすると細かい課題がたくさん出てきて、人はどうするか、そういうことが今後議論できるようになるかなと思います。

後半部分は参考ということで、書かなくて問題ございません。書いていたら大変だと思うので、書かなくて全然構いませんので、お願いします。

それでは、議題4「その他」に移ります。皆様、何か他にございましたら、挙手して、お名前を言ってからご発言をお願いいたします。

板垣委員

小金井市第二中学校の板垣です。事務局または指導室にお伺いすればいいのか、前もってお話はさせていただいたのですが、東京都教育委員会のホームページから、教育庁、トップ、学校教育、教育内容、学校体育・部活動というページに、学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドラインというのがありまして、我々教員のイメージだと、外部指導者は引率ができないと思っていたのですが、先日試合に行った時に、他市の方から、外部指導者も引率できますよ。と言われ、そんなことないだろうと思って調べたら、東京都教育委員会のガイドラインの方に、学校部活動で、こういう表が書いています。

学校外での活動の引率に、教員○、部活動指導員○、外部指導者△と書いてあります。次のページに、部活動指導員等の配置という欄がありまして、東京都教育委員会及び区市町村教育委員会は、各学校の生徒や教員の数、部活動指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。また、教員ではなく部活動指導員が顧問となり指導や大会等の引率を担うことのできる体制を構築する。部活動指導員が十分に確保できない場合には、校長は、外部指導者を配置し、必ずしも教員が直接休日の指導や大会等の引率に従事しない体制を構築する。等が都のガイドラインには掲載されていました。ただ、小金井市のガイドラインを見ると、令和5年10月のものには、ほとんどの内容が都のガイドラインから転載されているものかとは思いますが、外部指導者はこういうことに気をつけなさいとか、そういうものを書いてある書類ですが、特にそこには外部指導者の方には、そういう記載はなくて、部活動指導員に関しては、引率ができて責任が伴うから、

部活動指導員の質の維持、向上は常に求められる大きな課題ということを踏まえ、毎年部活動指導員に対する研修を行うと記載がされています。

なので、都のガイドラインで△となっていて、現状我々はあまり調べもしなかった私たちもあれなのですが、外部指導者は絶対引率はできないと思い込んでいたのですが、今の都のガイドラインを見ると、必ずしもそうは言えていない。それを外部指導者が引率できますと言った場合、土日の学校内もそう思うのですが、都のガイドラインと少し齟齬している部分があると思うので、その齟齬がどういうものなのか、15ページのイの1番下に行くと、部活動指導員が十分に確保できない場合には、校長は、外部指導者を配置し、必ずしも教員が直接休日の指導や大会等の引率に従事しない体制を構築する。と出ている状況で、それが学校長の判断で外部指導者がいいですよという風になるのか。二中の現状を言うと、剣道部の方で、砂子委員にも協力いただいて、今家庭事情等で剣道部の顧問が土日は見られない状態で、剣道部ではない顧問が、代わりに学校に来て何かあった時に対応するという姿勢を、臨時的に構築しています。これをそのまま行うのであれば、結局剣道部の顧問じゃない教員が学校に来ています。

でも、それが罷り通るのであれば、わざわざ他の部活の顧問とかに、学校に来ていただく必要はないだろうし、その辺りがガイドラインと現状は矛盾していると感じていて、だからその辺りの実態がどうなるか。それに対する明確なアンサーはどこから出るものなのか。なので、小金井市のガイドラインでは、毎年部活動指導員に対する研修を行うと書いてありますので、どういう研修を実施しているのか。その研修を外部指導者が受けることで、土日、外部指導者が見てくださいとなるのか。その辺りの見解をお伺いしたいと思います。以上です。

田村主事

小金井市の部活動のガイドラインで、部活動指導員と外部指導者の役割が書かれており、学校外での活動、大会や練習試合等については、部活動指導員しか位置付けていません。

最初の部活動指導員と説明のところに、こういうことが書かれていないにあると思いますが、「部活動指導員は実技指導に加え、教員の代わりに生徒指導や対外試合の引率を行うなど責任の重い職務

を担うことから」という文章があります。

万が一事故が起きた時に、その責任を負うということも含めて、部活動指導員は時給制の会計年度任用職員として任用しているところでは。

外部指導者は、会計年度とかでは全くなく、立場が違うところがあるので、より責任の重いところを担っていただくということで、会計年度任用職員として任用しているというところがあります。

そのため、小金井市のガイドライン上の、引率ができるのは部活動指導員のみとなっています。

部活動指導員ですが、研修を行っています。例えば、責任の重い職務を担うことから、「教職経験者が的確と認める地域の指導者など、指導するスポーツ、文化活動等に関わる専門的な知識技能のみならず、学校教育に関する十分な理解を有する優れた人材を配置することが重要である」と書いてありまして、例えば体罰や暴言、不適切な指導などが起きないように、しっかりと研修を行う必要があります。

研修は、今の東京都の部活動指導員の研修動画などを見て、校長に報告することで研修を行っています。昔、私が外部指導者として部活動指導員を始めた時は、そのような指導をしたこともあります。教育委員会として、その研修をしっかりと行っているのが部活動指導員です。以上になります。

板垣委員

その場合、校長が外部指導者を配置し、必ずしも教員が休日の指導や大会の引率に従事しない体制を構築する部分との齟齬があると思うのですが。

田村主事

そもそもこのガイドラインに部活動指導員と外部指導者の役割を位置付けているので、この部分は齟齬が生じるというところは、何とも言えません。

平田室長

ありがとうございます。東京都のガイドラインは都立学校向けに作成されたガイドラインです。小金井市のガイドラインは東京都のガイドラインを参考に作成しています。ただ、細かいところでの位置付けや、責任の範囲などは違いが生じています。

齟齬があるとか、都のガイドラインに沿って小金井市がさせなけ

ればならないというものではないので、ご了承ください。

都のガイドラインを参考にしているというところで、ご指摘をいただいたので、今後の課題とさせていただきます。以上です。

金子委員長 都が上にあって、市が下にあるという関係性にはなっていないのが基本的な考え方で、小金井市がこれを決められた時の状況なので、場合によってガイドラインの改定をしていく可能性も考えなきゃいけないかもしれないのではと思います。

ただ都がこれを必ずやりなさいと言っているわけではないと思うので、どこかのタイミングでガイドラインを小金井市として決められたらと思います。

田村主事 東京都の△については、改めて調べないといけないと思いますが、少なくとも引率というところで行くと、それなりの責任を負うことになりますので、その部分がしっかり担保している部活動指導員だけが認めているところになります。もしかしたら、東京都の方も研修をして、なにかしらの制限があるかもしれない。そこはまた調べてみます。

金子委員長 やるとしたら小金井市のガイドラインをまず改定しなきゃいけないので、手続き上それがどういう風にできるのかを教育委員会の方に考えていただかなきゃいけないと思います。実際に公開しているガイドラインだと思うので、何らかの会議体で議論をした上で最終的に決められているものだと思います。聞いていただいた上で、改定が必要と判断されるのであれば、改定の手続きを取っていくということも場合によってはあるのかと思います。

板垣委員 では、その△は次回伺えますか。

私はサッカーなので関係ないですが、テニスは個人戦だと生徒によって会場が変わっちゃうから、実際には引率できておらず、テニス大会の運営のほうで顧問はどこ中にいますという風になっていて、その場にはいないけれども、何かあったらこの方へという形で今運用しているようです。

だからそういうところの△という可能性はあるのかなと思ったのですが、現実的には部活動指導員は来年度3人ですか。人数によっ

て部活動の数と部活動指導員との数にはだいぶ乖離があるので、結局土日の部活動に関しては教員が必ず行かなければならない環境は避けられないと思います。

そこが改善しない限りは、現場はどんどん疲弊していくだけです。部活動ができないという教員もどんどん増えておりますし、一生懸命やっている子たちを見て、しんどいからもう僕は部活動をできないとは言いづらいのが現実的にあるので、その部分をみんなで何とかしようとしないと教育現場は疲弊していきますし、1番現場が悲鳴を上げていますので、そこを改善していただいた上で何とか助けていただきたいというのがあります。

部活動が原因で離婚している者もいますから、そこは違いうだろうとも思いますので、この会議レベルと現場レベルとでだいぶ乖離があるのを常々感じていて、持続可能ではない。

熱心に指導したい気持ちはあるけれども、それはやる気の問題ではなくて現実的に無理だということを理解していただきたいと思います。以上です。

金子委員長

ありがとうございます。まさにありがたい姿というかですね、先生方が苦勞しないというのも、本当にありがたい姿だと思いますので、小金井市の部活動は先生方が絶対に不幸せにならないというようなありがたい姿でもありかなという風に思います。疲弊しているところもすごく強く感じておりますので、なかなか決め事が大変なので、すぐには行かないというのがもどかしいところではあるのですが、最終的にはそういう形にしていけないといけないだろうなと思っています。

次回までにはなかなか難しいところもあるかもしれませんが、東京都の話の方も聞いていただいて、必ずしも東京都の言うことを小金井市が聞かなければいけないという話ではないので、改めて小金井市で検討できるようであれば検討していただければなと思います。事務局より連絡事項はございますか。

鈴木委員

質問させてください。鈴木です。先日、実証実験見学させていただきましたありがとうございます。短い時間でしたが、様子も見られてお話も聞けてよかったです。ありがとうございました。

今回の実証実験で人件費の話が前回の会議で出ていて、大体30

から50万円ぐらいというお話だったのですが、このうち今回、人を派遣していただいた人件費の部分というのは日当いくらだったとか、交通費はいくらだったという具体的な数字はお答えいただけますでしょうか。

三浦課長 ご質問の趣旨がわからないのですが、指導者が派遣されたことに對する人件費でしょうか。

鈴木委員 そうです。指導者に支払われた日当。将来的には何を雇うにしても、例えばスポーツ庁は1時間1,600円ぐらいの給与を目安にしないとか、金額の目安を示しているのですけれども、例えばリーナスさんをお願いして指導者を派遣していただいた場合の金額の目安みたいなものがあるのかなと思ってお尋ねしました。

金子委員長 今回の実証実験はという事ではなくてということですか。

鈴木委員 そうですね。でも今回の実証実験の金額しか今わからないのであれば、それを具体的にお聞かせいただきたいなと思います。

金子委員長 実証実験に関して文脈が違うので、そもそも調査にも入っていないというところだと思います。

鈴木委員 わかりました。そして先ほど女性の方が、当日の指導者と顧問の方との連携、あと保護者との連携というようなところは大切だということで、今後の課題としてお話になっていたと思うのですが、埼玉の白岡のほうで完全に地域移行して、受益者負担も始まっているのですけれども、月2,500円だそうです。

そういったものを管理する顧問の週末の指導者が、どんな練習をしたかというような連携をとりあえて、保護者からの問い合わせ、それから生徒の出席もスグラムというアプリで連携をしているようで、この機能として優れているのは決済もできるようです。

万一月謝が発生するようになった場合、それも決済ができるということで、もし実証実験で今後アプリも入れてみてという事ができるのであれば、一度検討していただだけませんか。そうするとこれを試してみた結果、3月の実証実験の最後の報告が出てくる時に、

全然合わないよとか、使用してみたら面白かったというようなことも聞けると良いなと思うので、それは少しお考えいただければと思います。以上です。ありがとうございます。

金子委員長 ありがとうございます。部活動の管理に関しては多様なシステムをリーフラスさんも開発されていると思いますし、いろいろあると思いますので、課題が上がってきたら検証もしていくのかなと思います。

下島委員 小金井市南中サッカー部の下島です。どんな部活動にしたいというところで、部活動について気になることを3つぐらい書くという項目がありましたので、書かせていただいたのですが、持続可能かどうかというところの問題で今すごく私自身問題だなと感じているのが、対価が支払われてないことです。

休日3時間ということになっていますけど、引率と行き帰りの時間も入れれば5、6時間は拘束されてしまうこともあります。そして、交通費も出ません。

どれだけ引率しても3,000円しか支払われません。だから1回の引率で時給は300円ぐらいになると思います。それが現状です。今回この場で色々話されていると思うのですが、お金をかけずにいいサービスを提供してもらおうということ自体がおかしいと思います。

例えば部員に関して、週5回活動を実施していますが、無料ですよ。無料で週5回も活動に行け、良い指導者が来るはずがないじゃないですか。私は現実的じゃないと思います。お金をかけずに、指導者をどう集めようかと考えても不可能だと思います。現実的なのは、参加するのであれば月謝を払うべきだと思います。

月謝を払えないのであれば義務教育の範囲外なのだからサービスは受けられないのは当たり前だと思います。ただお金がないからそういう所に参加できないという子もいると思うので、そんなに高いお金は求められないとは思いますが、例えば週1回の活動であれば月謝1,000円、2回であれば2,000円、3回であれば3,000円、4回、5回であれば4,000円にすれば現実的に払える金額だと思います。教員の私が言うのは傲慢かもしれませんが、それでも払えないような所得の少ない方には補助を出してあげる。そう

すれば、例えば部員が20人いて1人で見なきゃいけない顧問の先生がいた場合は、20人×4,000円で8万円が入ってくるわけです。もしくは50人を2人で見ても、顧問1人ずつに10万円近くとなるわけです。

小金井市は顧問に対して謝礼が支払われることになれば、いい指導能力を持った顧問の教員が小金井市を希望してくると思います。私はサッカーをやっていますが、本当にいい指導者がたくさんいます。力があり、熱意があり、教員の移動希望も何年かすればここに来たいというのも出せるので、小金井市がそういう体制を取れば指導者の確保に対して苦勞するということとはなくなると思います。

そのため、現実的には、先ほど話をしたようなそんな高くはないと思いますけど、月4,000円で週5といっても1時間100円ですからね。それが1番現実的じゃないかなと思います。以上です。

金子委員長

ありがとうございます。そういうことも含めてありたい姿を描いていった時に、学校の中でやるのか、学校の外でやるのかということが地域移行とか地域連携の主体になると思います。

安平町の教育長も、ピアノには5,000円出すのに部活動にはどうしてお金を出さないのだというのが、おっしゃられていました。ピアノを習う時は月謝5,000円払っているよね、という話です。そういうことも含めて考えていく必要があるのかなと思います。ただ、最後におっしゃられた通り、子どもたちを中心に考えたら、貧困だから体験ができないという状況が本当にいいのかどうかということも合わせて考えていく必要があります。

その場合は、どのように税金を使用していくかということを議論していかなくはいけないだろうと思います。実際先生方の意見をたくさん出していただいたので、学校現場がどうなっているのが切実に伝わったかなと思います。そこも含めて、どういう部活動にしていけばいいのか、もちろん当然ですが、部活動をやらない選択肢もゼロではないという話です。スポーツ庁が出していたように、必ずしもやらなければならないものではないというのが部活動だということを考えながら、子どもたちにとってどういう部活動が1番いいのかを引き続き考えていければなと思います。

砂子委員

先ほどの生徒のニーズを捉えてどういう部活動にするのかというのと、教員の軽減と対価の支払いと合わせて、中体連の公式戦の試合に部活がないと出ることができず、団体戦が出られないということが、色々進めていく中で引っかかります。

地域連携に関わる検討委員会が立ち上がっていますので、ぜひ拠点校を作り大会に出れたり、行政主導地域クラブ活動という市の団体として中体連に出られるという二通りあるのですが、それが市の団体から先生たちに働きかけて動かすことが難しく、なかなかそこは私たちのところでは突破できないところなので、ぜひ先生方や教育委員会で、市の方と今後の進めるところには、今の問題プラス試合のところも考えていただきたいと思いますので、意見としてお願いさせていただきます。

金子委員長

ありがとうございます。先ほど伝えたように、学習成果の発表の場というのが、どのように担保していくのが1つあると思います。必ずしも中体連の大会でそれが無ければいけないことも含めて、考えていく必要があるかなと思います。絵画コンクールは中体連が関わっていないと思いますし、例えばロボコンはNHKが実施しているみたいなこともあると思います。

それを元にどのように大会や子どもたちの発表みたいなものを担保していくかが1つ議論になると思います。どれぐらいの大会数が必要なのかということも含めて考えていく必要があると思います。

依田委員

せっかくサッカーを通しての、事例が情報として得られましたので、野球がどんな感じかというのを私の方から話させていただきたいと思います。野球は、まさにボランティアでやっています。我々のチームも基本的に指導者はボランティアです。ただ、色んな経費がかかるので、部費を5,000円、月謝5,000円集めて、土日は大体8時半から17時まで。それから休日も8時半から17時までやります。それは我々がボランティアで実施しているという事で、何かの見返りを求めているわけではありません。

実証実験には色んな立場があると思うのですが、たまたま日野市や国分寺市でうまく行えている例というか、先進的に実施している例もあるので、小金井市野球クラブで35年も指導していますが、土日はそっちで練習したいということがあれば、尊重していいじゃ

ないかと私は思います。そのため、兼部は我々からすると、そういう概念は捨てた。どちらかにしなさいとは言わない。学校の指導者はまだ多少限りがあり、野球クラブに行くのかという感じになってしまうので結局困る。それがものすごくもったいなくて、やりたい人がみんなじゃないと思います。

例えば国分寺市や日野市は、ほとんどクラブに行きます。小金井市はそうならないかもしれないけど、やはり土日野球漬けじゃないけれど、そんな長い時間やるならそこをもっと好きでやってみたいよねというようになれば、うまく行えたらいいと思います。僕が好きで指導しているから、学校でどうしてもやらなきゃいけないのは少し違うと思いますが、そういう意味では実証実験というのは、新しく構築するのももちろんいいですが、今ある形を利用したらいいじゃないかとも思います。

そのアイデアは他の競技でもできて、優秀な指導者がいるのであれば、そういう人が土日見ることができる方は多分いると思います。そのような形で分担作業をすると、平日は申し訳ないけど、先生たちに頑張ってもらい、基本的に休日との分担作業をすると先生の負担は少しずつ変わってくるのかなと思います。

参考になったかどうか分かりませんが、今の実態を踏まえると、それから他の事例を見るとそのように思います。実証実験というのは色んなパターンがあり、色んな方の実証実験があっていいと思います。僕が考えたことは堅苦しい話かもしれませんが、1日中、野球やりたい方はいます。数はそんなに多くないかもしれませんが。学校の野球部に入っているから、別のチームの活動に参加してはいけないとなっているので、それはやはり違うのかなと個人的には思うわけです。体制はできているが、人は自由にならない状況です。だから先生たちとか中学に張り付いているお父さんたちが頑張っているので、今が保たれています。本当にそれでいいのかなと思います。35年指導してきているので、なんとかしようという気持ちは強く持っているので、ぜひ活用してもらえばいいのかなと思いました。以上です。

金子委員長

地域のリソースは各地域によって違うと思いますので、小金井市においてどういうリソースがあって、どういう部活動だったら地域に貢献できるのかみたいなことも含めて考えていく必要があると

思います。前も言いましたけど、小学校の時代は皆様地域でスポーツをしているので、それが中学校に入ると学校でスポーツをするというようになってしまうのはなぜかということも、ありがたい部活動のありがたい姿みたいなことを考えていくと見えてくるかなと思います。

そのため、皆様が書いていただいたものは、じっくり読ませていただいた上で、目標というかビジョンみたいなものが作ればいいかなと思います。他の皆様はなにかありますでしょうか。それでは、事務局から連絡事項をお願いいたします。

三浦課長

皆様、ありがとうございます。本日の会議を持ちまして、令和6年度につきましては終了という形になると思います。現在市議会の方で予算審議中でございますので、来年度のことはなかなか申し上げにくいのですが、来年度につきましては、こちらのメンバーでお願いをしたいと思っています。

会議の開催頻度でございますけども、予算要求の時点では年4回と考えてございます。また、必要に応じて増えることがあると思いますが、その時はまたご相談をさせていただきたいと思います。次回の日程につきましては、正副委員長ともご相談させていただきまして、メンバーが変わることもあったりもするかもしれませんので、その辺も含めまして改めてご連絡を差し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。以上でございます。

金子委員長

ありがとうございます。それでは本日の議事は全て終了いたしましたので、本日の会議を終了させていただきます。少し伸びてしまいまして、申し訳ございませんでした。ありがとうございます。

—— 了 ——